

令和7年度 高倉中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 高倉中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	147	59	53	4.9	6.8	学校	508
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	149	68.5	55.4	59.4	49.0	57.8	4.9	5.2	9.6	7.8	5.2
	大阪市	—	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	48.1	53.2	6.8	6.5	12.1	10.0	7.4
2年	学校	170	68.0	45.4	60.0	50.0	59.9	7.1	7.0	9.6	3.5	5.1
	大阪市	—	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	168	64.2	61.7	55.7	72.4	61.3	8.3	2.3	7.7	2.6	4.9
	大阪市	—	-	58.3	-	63.0	-	-	-	-	-	-
1月14日	大阪府	—	63.1	-	56.7	-	65.2	10.2	-	8.8	-	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はA問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	139	126.1	115.2	159.4	108.2
10月21日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	151	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	26.78	30.05	47.59	56.38	83.91		7.87	196.51	22.70	46.39
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	22.78	23.32	52.42	50.48	57.72		8.64	168.12	12.14	52.31
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 高倉中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

■全国学力・学習状況調査

<国語>

全体の平均正答率は、全国平均と比較して4.7ポイント上回った。
領域別では、全国平均と比較して「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」すべての領域で上回った。
特に「書くこと」の領域では、全国平均よりも6.8ポイントも上回り、成果が大きく現れた結果となった。

<数学>

全体の平均正答率は、全国平均と比較して4.7ポイント上回った。
領域別では、全国平均と比較して「数と式」「図形」「関数」の領域で上回った。
特に「図形」「関数」の領域では、全国平均よりもそれぞれ6.6ポイント、11.0ポイントも上回り、成果が大きく現れた結果となった。
しかし「データの活用」の領域では、全国平均を下回った。昨年度も同様の結果だったこともあり、この領域が課題である。

<理科>

全国と比較して、IRTスコアは5ポイント上回った。また、IRTバンド1,2の割合が全国より少なく、バンド3,4の割合が全国より大きい結果となった。

■中学生チャレンジテスト(3年生)

<国語>

全体の平均正答率は府平均を4.3ポイント上回った。
領域別では、大阪府と比較して「読むこと」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」すべてで上回った。

<社会>

全体の平均正答率は府平均を4.2ポイント上回った。
領域別では、大阪府と比較して「地理的分野」「歴史的分野」ともに上回った。

<数学>

全体の平均正答率は府平均を5.5ポイント上回った。
領域別では、大阪府と比較して「数と式」、「関数」、「データの活用」、「図形」すべてで上回った。

<理科>

全体の平均正答率は府平均を0.9ポイント上回った。
領域別では、大阪府と比較して「粒子」の分野で上回ったが、「エネルギー」「地球」の分野では下回った。

<英語>

全体の平均正答率は府平均を4.6ポイント上回った。
領域別では、大阪府と比較して「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」すべてで上回った。

■大阪市英語力調査(GTEC)(3年生)

「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」の4技能すべてにおいて、大阪市平均を上回った。

■中学生チャレンジテスト(2年生)

全体の平均正答率は、5教科すべてにおいて、大阪府平均を上回った。
(国語:+3.5 社会:+1.1 数学:+4.5 理科:+3.3 英語:+8.1)

■中学生チャレンジテスト、チャレンジテストplus(1年生)

全体の平均正答率は、国語においては、大阪府平均を上回ったが、数学と英語は下回った。
また、社会と理科については、ともに大阪市平均を上回った。
(国語:+1.1 社会:+3.4 数学:-1.0 理科:+9.4 英語:-3.9)

■全国体力・運動能力、運動習慣等調査(2年生)

男女ともに体力合計点は、大阪市平均や全国平均と比較して、大きく上回った。
男子は「握力」、女子は「握力」「ハンドボール投げ」に課題がみられる。
「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」という質問に対し、最も肯定的な回答をした生徒の割合は大阪市平均や全国平均と比較して、大きく上回った。
1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合は、大阪市平均や全国平均と比較すると少ない結果であった。

【今後に向けて】

1年生のチャレンジテストの結果をふまえ、これから1年間の取り組みをしっかりと考え、学力向上を図っていく。
体力向上については、例年いつも低い「握力」「ハンドボール投げ」の強化を模索していく。